

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 659 2022年
1部60円 9月号
友の会会員は会費に含まれています
発行 東京勤労者医療会代々木病院
院長 河邊 博正
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
TEL 03(3404)7661
http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi

「核抑止力」論をのりこえ、核兵器のない平和な世界の実現を

コロナ禍での2022原水禁世界大会成功に向けた取り組み

核兵器をめくり、せめぎあう中で迎えた2022年原水禁世界大会

広島・長崎に原爆が投下されてから77年。人類は新たな核使用の危険に直面しています。ロシアのプーチン大統領はウクライナ侵略戦争で核兵器による威嚇を繰り返す、対抗する形でアメリカやNATOも「核抑止力」の維持・強化を図っているからです。一方、国際社会では核兵器の非人道性に対する認識の広

コロナ禍が続く中でも、原水禁運動に積極的に取り組もう

代々木病院では原水禁 世界大会へ毎年代表派遣



「核兵器のない平和な世界を」と折り、全職員で作成した千羽鶴を玄関に展示



外玄関には「なくせ核兵器、核禁止条約に日本は参加を」のパネル展示、患者さん、通行人にもアピール

を行ってきましたが、コロナ禍のためこの2年間代表派遣を行えず、青年職員を中心に世界大会のWEB視聴参加のみとなっていました。今年も感染状況が厳しく代表派遣は見送りとりましたが、原水禁世界大会成功に向け、コロナ禍でも出来る取組みを積極的に行うこととしました。取り

全職員で千羽鶴を折って、玄関先でアピール

コロナ禍前までは、平和の祈り、被爆者へ追悼の意を込めて、全職員で千羽鶴を折り大会参加者が平和公園に折鶴を奉納してきました。今年は病院玄関に千羽鶴を飾り、平和の祈りと追悼の意を表そうということで各職員も行いました。

1年目職員、マンガ「あの日、ヒロシマで」で学習

1年目の職員にはマンガ「あの日、ヒロシマで」をプレゼントし、学習しました。その中の一篇「原爆と闘った軍医」という話は、全日本民医連をアピールし、その後も被爆医師として活躍され



1年目職員にマンガ「あの日、ヒロシマで」をプレゼント。学習の課題としました。



8月6日原水禁世界大会「ヒロシマデー集会」を熱心に視聴する1年目職員

た肥田舜太郎医師が主人公です。主人公の陸軍軍医が想像を絶する数の被爆者を治療し、被爆後に元気な人も蝕んでいく放射能の本当の恐ろしさに対峙します。

読んだ職員から「戦争は天災とは違う。実は何年も、何十年前前から準備されている、いつかは戦争も、予防し、発生を抑えることができるよ

千駄の萱

山上徹也容疑者は、安倍晋三氏を銃撃するということ方
法に訴えるしか、生きていく道がなかったのか。誰か、または何かしらの機関に相談することは出来なかったのか。誤解のないように書いておくが、山上容疑者の犯したことを決して許すことはできない。被害者が総理経験者であるから言っているのではない。何人も、何者かによって突然命を奪われてはならない。日本国憲法で保障された権利でもあるはずだ

▼しかし我々は、山上容疑者のような人を包み込み、彼のような人が、誰かに助けを求めることが出来て、より良く生きていく道を探ることが出来るような社会を作ろうとしてきたのか。政治家なんて、せいぜい法律を作るくらいしか出来ない。日々の暮らしを、実際により良く作り上げることが出来るのは我々市民でしかない▼これから日本はますます貧困になるだろうし、政治やメディアは劣化の一途を辿るだろう。社会がどん底まで行き着いた時、何が我々の抛り所となり得るのか、ひとりのひとりが考えるべきだし、議論するべきだ。日本が民主主義の国になるために。(け)

(2面へつづく)